

JCHO大阪病院の令和6年度寄附金活用報告について

患者様、ご家族様をはじめ、当院に多くの皆様方よりご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

寄附者の方々それぞれの思いが込められたご寄附金。そのお気持ちを受け止め、最適な寄附金の活用方法を当院で検討し、おかげさまで、病院の医療環境においてより一層の充実を図ることができました。

感謝の気持ちを含めて、寄附金を活用させていただいた整備状況について報告申し上げます。

令和6年度活用報告

件名	活用場所
①運搬用保育器（インキュアーチ）	小児科・産婦人科
②超音波血流計	脳神経外科
③経皮血中ガス分析装置	呼吸器センター
④ナーステーブル	救急室
⑤細径子宮鏡	産婦人科
⑥手術用鋼製小物	脳神経外科

合計6点 総額で12,800,810円の整備を実施させていただきました。

①運搬用保育器（インキュアーチ）



『小児科・産婦人科にて使用中。
経年劣化により老朽化していた1台を寄附金にて整備しました。
本装置は、赤ちゃんの命を守る、最新の搬送用保育器です。大きなアーチ型の透明なカバーで赤ちゃんを優しく包み込み、外の細菌や騒音といった刺激を遮断しながら、あらゆる角度から24時間体制で安全に見守ることができます。まだ自力で体温調節ができない赤ちゃんの状態に合わせて、内部の温度や湿度を常に最適な状態にコントロールし、過ごしやすい環境を提供できます。赤ちゃんを移動させる際も振動に配慮されており、赤ちゃんへの負担が少ない設計です。』

②超音波血流計



『本装置は、手術中に目視では確認することが難しい、血管の中を流れる血液の速さや量を、超音波を使ってリアルタイムに測定する精密機器です。10インチの大きなカラー画面に血流の動きが波形として分かりやすく表示されるだけでなく、血液が流れる音をスピーカーから聴くことができるため、医師は手術が正確かつ安全に行われているかをその場で瞬時に判断することができます。主に脳動脈瘤の手術や血管をつなぐ高度な手術などで力を発揮し、手術の安全性を飛躍的に高めて患者様の体への負担を軽減するために欠かせない存在です。』



③経皮血中ガス分析装置

『本装置は、呼吸器系の疾患や手術後の管理、また睡眠時の呼吸障害などにより、慎重な呼吸のサポートが必要な患者様の状態を把握するためのシステムです。これまでは、体内に二酸化炭素がどれくらい溜まっているかを調べるために、何度も痛みを伴う採血を行う必要がありましたが、この機器の導入により、皮膚の上に特殊なセンサーを貼るだけで、24時間いつでもリアルタイムに呼吸の状態を測定できるようになりました。検査の痛みやストレスを与えることなく、急な状態変化にも迅速に対応できるため、より安全で快適な入院・治療環境を提供することが可能となりました。』

④ナーステーブル

『救急室にて医師や看護師がカンファレンスするテーブル整備しました。元々が小さなテーブルのため、打合せの際は移動することも多く職員の負担となっていました。整備により、広い作業スペースが確保ができ、多職種がスムーズにコミュニケーションをとれる環境が整いました。これまで以上に迅速で質の高いケアを患者様に提供できるようになりました。』

